

先の 4 月 18 日(日)に行われた新試験制度 3 回目となる平成 22 年春期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系 5 試験の合格発表がありました。同時に発表されたスコア分布などの統計データをもとに、情報セキュリティスペシャリスト試験の合格発表コメントをお知らせします。

### 情報セキュリティスペシャリスト試験 ( S C )

[平成 22 年秋期の情報セキュリティスペシャリスト試験 統計情報]

応募者	30,296 人
受験者	19,951 人
合格者	3,045 人
合格率	15.3%

情報セキュリティスペシャリスト試験は、旧試験のテクニカルエンジニア(情報セキュリティ)試験と情報セキュリティアドミニストレータ試験が統合された新試験で、ややテクニカル寄りの内容を出題すると試験センターから発表されています。

第 3 回目の実施となる平成 22 年春期の情報セキュリティスペシャリスト試験では、前回の平成 21 年秋期の試験に比べ応募者が 3,600 人ほど増えました。合格率は前回過去最高だった 18.5% から 3.2% 減少した 15.3% で、過去の試験での平均的な合格率になりました。

まず始めに、新試験で従来の午前試験が分割された午前 と午前 の試験の分析結果をお知らせします。

[午前 試験 (高度試験の共通知識問題)]

・高度試験に共通して出される問題 30 問は、前回の試験と同様にすべて応用情報技術者試験( AP ) から選ばれていました。過去問題の比率は 5 割弱で前回よりも減っています。

・分野別の出題比率は前回と同じで、出題範囲の中で 23 ある中分類からまんべんなく出題されています。今回の試験で 2 問出題された中分類は次のとおりですが、他の分類に比べて少々重要視されている分野といえます。

(2 問出題された中分類)

アルゴリズムとプログラミング、ソフトウェア、データベース、セキュリティ、プロジェクトマネジメント、サービスマネジメント、システム戦略

・新傾向または新しい用語に関する問題は次のとおりです。

(新傾向問題)

問 3 ( = AP 問 8 ) 妥当な XML 文書

問 9 ( = AP 問 26 ) ヒューリスティック評価法

問 14 ( = AP 問 42 ) LAN アナライザ

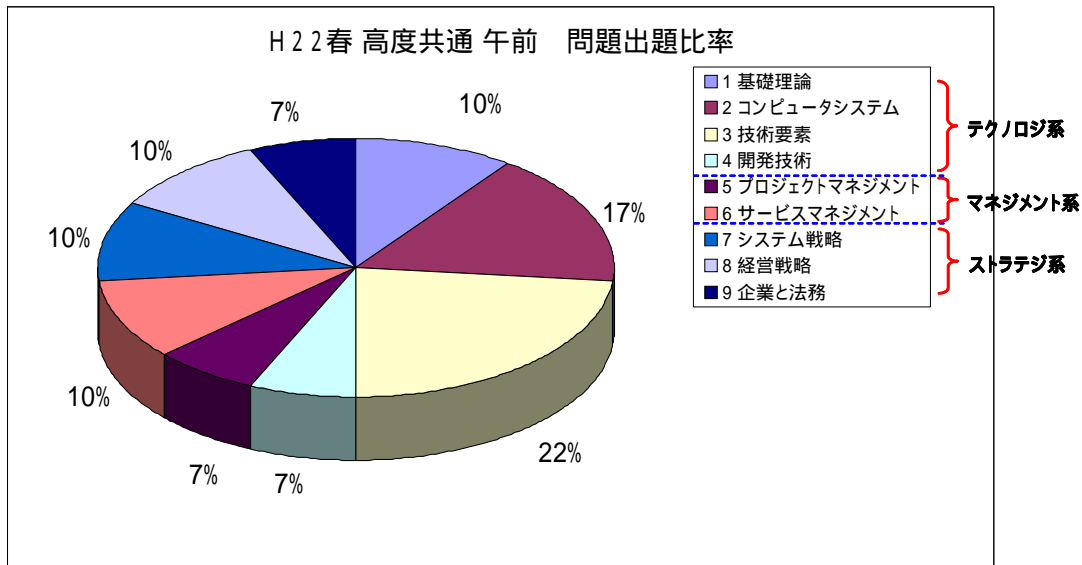
問 18 ( = AP 問 51 ) プロジェクトライフサイクル

問 20 ( = AP 問 54 ) ITIL v3 (問題管理プロセス)

問 26 ( = AP 問 67 ) チャレンジャ戦略

問 27 ( = AP 問 69 ) 技術の S カーブ

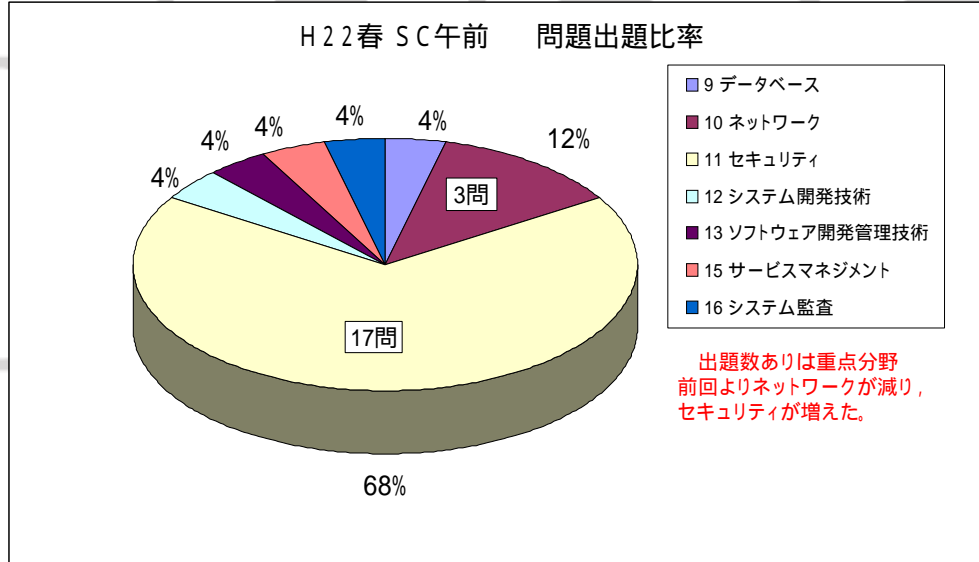
平成 22 年春期の高度試験共通 午前 問題出題比率



〔午前 試験（専門知識問題）〕

午前 試験は基本的な問題が多く、セキュリティとネットワークの専門知識の出題数は、それぞれ 17 問と 3 問の合計 20 問でした。前回の試験ではそれぞれ 14 問と 6 問（合計 20 問）でしたので、専門分野であるセキュリティ重視の傾向に変わったといえます。

平成 22 年春期の情報セキュリティスペシャリスト試験 午前 問題出題比率



〔午後問題〕

・午後 問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。解答数は旧試験のときの 3 問から 2 問に減りましたが、前回試験と同様に 1 問あたりの設問数が多く、受験者負担はあまり変わっていないと感じます。

・今回の出題内容はテクニカル系とマネジメント系のバランスのとれた出題で、専門的すぎるような問題はありませんでした。しかし、問 1 のセキュアプログラミングの内容は経験が必要な部分もあり、選択の幅が狭くなっているため、問題選択で少し苦労させられる面がありました。

問 1 Java プログラミング（テクニカル系） 普通

問 2 データの暗号化とバックアップ（テクニカル系） 普通

問3 転職サイトにおける個人情報保護(マネジメント系) やや易

問4 ウイルスの駆除及び感染防止(マネジメント系) 普通

・午後 問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。問1がテクニカル系、問2がマネジメント系の問題でした。難易度は前回とほぼ同じ標準レベルだったといえます。

問1 インターネットに公開されているサーバの情報セキュリティ対策(テクノロジー系) 普通

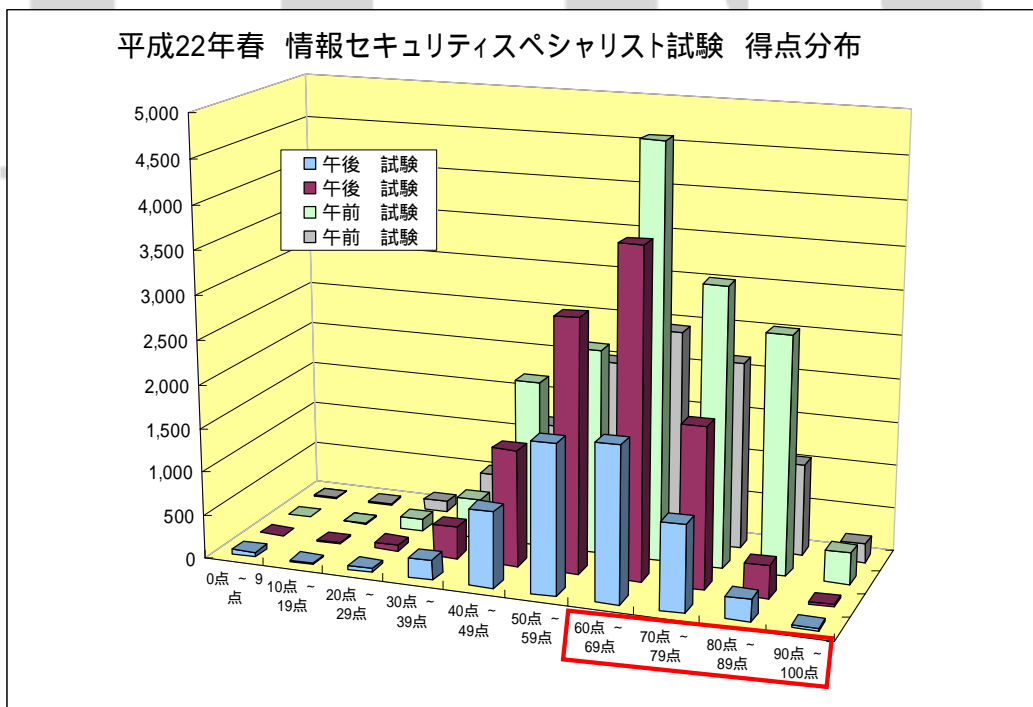
問2 情報セキュリティインシデント対応(マネジメント系) 普通

〔平成22年春期 情報セキュリティスペシャリスト試験 スコア分布〕

平成22年春 SC	応募者	受験者	合格者
人数	30,296	19,951	3,045
率		65.9%	15.3%

得点	午前 試験	午前 試験	午後 試験	午後 試験	合格者
0点 ~ 9点	4	4	9	53	
10点 ~ 19点	12	3	14	14	
20点 ~ 29点	122	135	74	44	
30点 ~ 39点	529	453	371	227	
40点 ~ 49点	1,203	1,904	1,338	871	
50点 ~ 59点	2,020	2,347	2,893	1,703	
60点 ~ 69点	2,442	4,718	3,738	1,772	
70点 ~ 79点	2,155	3,197	1,839	986	
80点 ~ 89点	1,051	2,716	370	252	
90点 ~ 100点	216	355	27	35	
計	9,754	15,832	10,673	5,957	3,045
対前試験比率		162.3%	67.4%	55.8%	51.1%
午前 免除者(概数)	10,197	51.1%			

合格者数	3,045	採点者数の割合	合格者数との差
午前 60点以上合計	5,864	60.1%	2,819
午後 60点以上合計	10,986	69.4%	7,941
午後 60点以上合計	5,974	56.0%	2,929
午後 60点以上合計	3,045	51.1%	0



新試験制度で春期の試験で午前 試験免除になった人がたくさん出ましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 試験の免除者は概算で 10,197 人(51.1%)おり、受験者の約半数は午前からの受験となりました。試験実施前は 6 割以上の免除者になると予測していましたが、実際の免除者は微増でした。

次に高度系共通の午前 試験で基準点(60 点)以上の人は 5,864 人(受験者の 60.1%)でした。前回は受験者の 36.1%の人しか 60 点以上取れませんでした。問題が前回に比べ少し易しかったとはいえ、受験者が確実に出題範囲の学習をしたことが理由として考えられます。

午前 試験で基準点以上の人は 10,986 人(受験者の 69.4%)と非常に高い率になっています。前回試験と同様に今回も難易度としてレベル 4 といえる問題が少なく、全体に易しかったといえます。他の高度試験でも同じような傾向があり、今後は午前 試験の難易度がもう少し高くなると予想します。

午後 で基準点(60 点)以上取れた人は 56.0%で、前回試験の 61.6%と比べて 5%ほど下がっており、難易度が上がったことが裏付けられています。最後に午後 で基準点(60 点)以上取れた人は 51.1%で、前回試験の 55.8%よりも減少しました。

午後の試験で合格点に達しなかった人は、次回試験の対策として、「午前試験で出題される専門知識の理解度をまず上げる」、その次に、「午後試験で必要とされている知識を題材として、さらに深く学習する」ということを繰り返し行うとよいでしょう。

#### 合否別の試験対策と通信教育、セミナーのご案内

(今回合格された人へ)

合格された方で今秋のネットワークスペシャリストやシステムアーキテクト、IT ストラテジスト、IT サービスマネージャ試験を目指す方は、午前 試験が免除ですので、午前 の専門分野知識について、なるべく早く試験対策を始めましょう。まずは該当分野の応用情報技術者試験の問題を解くことをお勧めします。

午後 試験が論文となるシステムアーキテクト、IT ストラテジスト、IT サービスマネージャ試験を受ける方は、新試験の内容や出題範囲をよく理解して学習することが必要です。論文試験で合格点の A 評価を取るためには第三者の添削が欠かせません。アイテックの通信教育では必要なテキスト、模擬試験に加え、論文添削も行っていますので、ぜひご利用ください。

アイテックで出版している試験対策用の教科書(基礎テキスト)は新試験用にレベルごと分野ごとに新たに編集し直したものです。また、出題ポイントを効率的に学習するための「合格への総まとめ」、各試験別の予想問題集、本試験問題は新試験の出題内容を研究し改訂しています。これらすべての書籍が書店またはアイテックの Web ページ(<http://www.itec.jp/shop/>)でご購入いただけます。ぜひご利用下さい。

通信教育コースでは、高度系の午前 試験が免除になる方のために最適な教材をお得なセット価格でご提供する標準学習時間 3 か月の「**免除コース**」をお勧めします。高度専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2 回)、論文添削(2 回;午後 が論述試験のコース対象)の教材が含まれています。ぜひ、ご利用ください。

午前 試験に出題される IT 共通知識のレベル 3 も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト(分野別全 6 冊)、午前 対策用「合格への総まとめ」、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験(2 回)、論文添削(2 回;午後 が論述試験のコース対象)をすべて含んだ標準学習期間 6 か月の「**総合コース**」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集(予想問題集、本試験問題集)と模擬試験(2 回)、論文添削(2 回;午後 が論述試験のコース対象)をセットにした標準学習時間 4 か月の「**速習コース**」ほか、各コースの e ラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「合格ゼミ」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

今回残念ながら不合格だった人

まず、午前 の試験で 50 点に満たなかった人は、自分がよく理解していない内容について早めの学習が必要です。時間のない方は、「2010 合格への総まとめ 応用情報・高度 午前共通知識対策」で出題ポイントと必須問題で効率的に学習を進めましょう。基本事項を理解していない人や苦手な分野がある人は、アイテック刊行の新試験用のレベル 3 の教科書（通信教育教材）でじっくり学習することをお勧めします。

今回の午前 ，午前 試験の得点が 50 点～59 点の人は、合格までほんとうに“あと一歩”のところまで実力が来ていますので、学習した知識が薄れないうちに、早めに次回試験の対策として復習を行い、新たに加わった分野の学習を始めましょう。また、午後試験の得点が 60 点に満たなかった人は、まず午前 の専門知識の内容に関して、午後試験問題を解答するのに必要な知識を確実に理解してください。

次に確実な解答を出すために、落ち着いて問題を解き、解答が正しいかを検証する力を付けましょう。新試験では選択範囲が広がったことで解答しやすくなるとも言えますので、チャンスが広がると考え、早めに対策を行いましょ。なお、午後試験に強くなるには、時間を決めた問題演習やアイテックの模擬試験を会場で受けるなど、試験会場の環境を考えたくえで問題を解く訓練を行うのが有効です。

通信教育コースでは、午前 試験免除対象の方のために最適な教材（高度専門知識・午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験（2 回）、論文添削（2 回；午後 が論述試験のコース対象）をお得なセット価格でご提供する標準学習時間 3 か月の「免除コース」をお勧めします。ぜひ、ご利用ください。

午前 試験に出題される IT 共通知識のレベル 3 も含めて、総合的に学習したい方には、基礎テキスト（分野別全 6 冊）、午前 対策用「合格への総まとめ」、専門知識テキスト、午後試験重点対策テキスト、予想問題集、本試験問題集、模擬試験（2 回）、論文添削（2 回；午後 が論述試験のコース対象）をすべて含んだ標準学習期間 6 か月の「総合コース」をお勧めします。

この他、テキストなどをすでにお持ちの方向けに、問題演習を中心に行うための午前ポイント集、最新問題集（予想問題集、本試験問題集）と模擬試験（2 回）、論文添削（2 回；午後 が論述試験のコース対象）をセットにした標準学習時間 4 か月の「速習コース」ほか、各コースの e ラーニングなどメニューをたくさん用意しておりますので、ぜひご利用ください。

また、試験対策を受験対策のプロ講師が解説するセミナー「合格ゼミ」は、試験対策のノウハウや専門知識を効率的に理解できるセミナーと大変好評を頂いており、お勧めします。締切りの近いコース・セミナーもありますので、急いで確認しましょう。

各コースの内容は弊社のホームページからご覧いただけます。

<http://www.itec.co.jp/>

「合格への最短コース！ 合格ゼミ」

受験対策のプロの講師の講義で効率的な学習を進めましょう。

**定員に近い申込者数のコースもあります。お早めにお申込みください。**

<http://www.itec.co.jp/howto/seminar/index.html>

(以上)



itec